

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第12回研究委員会 議事録(案)

1. 日時：2014年10月6日(月) 10:00～12:00
2. 場所：日本地震工学会 建築会館 305会議室(東京都港区芝5-26-20)
3. 出席者：後藤，佐藤，久田，堀，山本，高田，末松，三上(H)，市古(H)，甲斐(H)，
小山(H)，荒木(記)
4. 資料：
 - 資料12-1 第12回研究委員会 議事次第
 - 資料12-2 第11回研究委員会 議事録(案)
 - 資料12-3 東日本大震災津波避難合同調査団の報告について(講演資料)
 - 資料12-4 都市避難部会報告 第2回日本地震工学会「首都圏における地震・水害
等による複合災害への対応に関する委員会」議事録
SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)について
 - 資料12-5 津波避難実態調査資料収集分析部会 作業報告
 - 資料12-6 国際交流WG活動報告
 - 資料12-7 シミュレーション部会報告
 - 資料12-8 第14回日本地震工学シンポジウム
 - 資料12-9 論文特集号
 - 資料12-10 予算の執行状況

5. 議事内容

5.1. 議事確認

- ・第11回研究委員会の議事録の確認を行った。修正意見はなく承認された。

5.2. 講演「東日本大震災津波避難合同調査団の報告について」

- ・後藤委員長より資料12-3の講演があった。
- ・以下の質疑，議論があった。
- ・避難の成功率について事前に評価する事を目的とするなら(被害関数のように)，事後に聞いて回らないとわからない数字でないと評価できないとすると事前評価に使うのは難しいのではないか。
 - 多くの地域で事後評価を行い実態と付き合わせていく中で事前評価に使える数値やその抽出方法が見えてくることを期待している。
- ・コミュニティが濃厚な方が共助につながりやすいという事があるが，コミュニティの濃厚さはどのように評価する(計測する)のか。
 - 地域の防災活動など地域でどのように活動していたかを見て定量化している

く必要がある。

- ・調査方法の違い(ヒアリングとポスティング)がある。違いについては分析可能と考えられる。
- ・大川小周辺は特に悲惨であった。元々避難するという意識がなかったのではないかと考えられる。
- ・場所による避難の違いは標高-高齢者-犠牲者等の関係でまとめられるものもある。
- ・雄勝は前年のチリ地震の津波で被害を受けている。特異な意識があったと考えられる。
- ・生存者から全体を見ることは可能か。
 - 場所によって違うが、9割は生き残っているので見えていると思う。
- ・防災訓練は行われていたか。
 - 山田町は津波を想定した訓練をしていた。石巻は実施されていない。
- ・建物の残存率などから情報が取れたのでは。
 - 流出が大破にくくられてしまっている場合もあり流出の定義や程度の問題もあるので流出からの情報だけではデータが取りにくい。山田でもやってみたが、結果が安定しなかった。
- ・石巻は寒さのため、一度家に帰って被災した人もいる。
- ・「避難」には様々なケースがあり一般的に定義はされていない。
- ・津波から避難したのではなく、地震があったから避難した人がいる。
- ・直接被災者からヒアリングしても、時間の経過とともに様々な情報の刷り込みがあり、正確な話を聞けていないこともある。正確な情報を収集することは難しい。

5.3. 各部会の中間報告

(1) 都市避難部会

- ・久田委員より資料 12-4 に基づき報告があった。
- ・SIP の公募で採択が決定した。本研究委員会との連携が可能であれば、進めたい。生田委員、小山委員には協力をお願いしている。

(2) 津波避難実態調査部会

- ・佐藤委員から資料 12-5 に基づき報告があった。
- ・ポスティング調査電子化は終了したが、不都合が多くチェック中。
- ・リンク集作成については進捗なし。
- ・中土佐町の避難訓練報告。消防との意見交換会を実施。了承を得た。
- ・津波避難タワーの規模は。
 - 400 人収容。津波高さの想定は 2 階部分まで 3, 4 階が避難場所。2 棟目は建設予定だが、3 棟目は難しいとの見方がされている。

(3) 国際交流WG

- ・後藤委員長より、資料 12-6 に基づき報告があった。

- ・論文特集号のとりまとめ作業を実施.
- ・海外における避難関係文献・資料の収集・分析. ハザードの事例集も作成予定.
- ・海外文献をサマリー1枚にまとめる.
- ・キーワードによる分析(中須委員), 海外の災害対応マニュアルの紹介(島村委員).

(4) シミュレーション普及部会

- ・堀委員より, 資料 12-7 に基づき報告があった.
- ・V&Vマニュアル V3.2 が完成.
- ・公表の仕方はこれから検討.
- ・研究委員会で求めて頂きながら, 実際の利用者も募る.
- ・日本地震工学会の HP に載せたい.
- ・理事会に連絡が必要では. → 福和先生の委員会を通して, そこを経由して理事会に提出してもらうのがいいのでは.
- ・第三者が苦勞するのでは. → きちんとデータを設定すれば, 同様の結果は得られると考える.
- ・交通工学研究会は好意的に見て頂いている. シミュレーションは V&V が重要.
- ・単独でもワークショップ開催も検討出来るのではないか.
- ・海外への発信が優先と考える. 我が国固有の技術として発信できれば, マニュアルそのものは常に Update が必要.

5.4. 第 14 回日本地震工学シンポジウム

- ・資料 12-8 に基づき, 市古委員より報告があった.
- ・土曜日の午前 8 時から午後 4 時まで押さえてある.
- ・オーガナイズ土セッションは一般論文も入っている. 論文は 12 編ある.

5.5. 論文特集号

- ・後藤委員長より説明があった.
- ・10 月中には原稿を集めたい.

5.6. 予算の執行状況について

- ・後藤委員長より説明があった.
- ・部会報告の投稿費用については委員会から払いたい.
- ・メールによる審議等で委員各位に確認する.
- ・今後の活動として何をやるか. 人を集めてのイベントを開催するか.
- ・イベントを開催し, 黒字にさせるのは難しいのでは.
- ・2 月の震災対策技術展に出展するのか. 資料等を作成するか.
- ・2 コマ程度確保すると, 2 時間くらいの枠になる.
- ・やるとすれば, シミュレーションに絞ったらどうか.

- ・年内にははっきりさせないといけない.
- ・20万円は厳しい支出になるのではないか.
- ・本件については, シミュレーション部会で検討をお願いします.

以上